

業種別部会長シンポジウム

「2015年の回顧と2016年の展望」

景気低迷期枝から見えてくるビジネス機会～景気回復期はいつか？

機械金属部会

(目次)

1 セグメント別レポート..... Page 3

2 まとめ..... Page 1 1

顧客事業状況

市場環境

企業対応

2016年2月25日

川崎重エブラジル 渡辺

“副題”の回顧と展望

2013年 下期 どうなるブラジル経済 —持続成長に向けて—

2014年 上期 どうしたブラジル経済 —W杯と総選挙のインパクト—

2014年 下期 どうする日伯関係 —ビジネス環境改善に向け、いま為すべきこと—

2015年 上期 再生目指すブラジル経済！ どう頑張る日系ビジネス

2015年 下期 必ず復活！ ブラジル経済 ～日系企業はどう立ち向かうか～

2016年 上期 景気低迷期だから見えてくるビジネス機会
～経済回復期はいつか？ 日系企業はどう備えるか？

2016年 下期 ○○○○○○○○ ！？

業種別部会長シンポジウム

機械金属部会

「2015年の回顧と2016年の展望」

景気低迷期枝から見えてくるビジネス機会～景気回復期はいつか？

業種・分野別分類

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 鉄鋼 | (5) 農業機械 |
| (2) 社会インフラ・発電 | (6) 切削工具・計測機器 |
| (3) プラント機械・造船 | (7) 産業機械 |
| (4) 建設機械 | (8) 潤滑油・軸受 |

1. 鉄鋼（鋼板）

2015年の回顧	2016年の展望
<p>2015年伯鉄鋼生産関連情報（伯鉄鋼協会 年末発表）</p> <ul style="list-style-type: none">粗鋼生産：3,320万トン（14年比▼2%）4年連続減圧延品生産：2,260万トン（14年比▼9.2%） 内訳、 鋼板 1,340万トン（同▼5.6%）、 条鋼類 920万トン（同▼14%）国内販売：1820万トン（同▼16.3%）2006年並 鋼材の見掛消費 2140万トン（同▼16.5%） インフラ投資減、自動車産業の落ち目の影響大鋼材輸入320万トン（同▼19.4%） レアル安、国内需要低迷輸出：1,370万トン（同40%増）北米・アジアに伸び 製品価格の下落で価格ベースでは2.3%増	<p>2016年の展望</p> <p>伯鉄鋼業界にとっては、非常に厳しい一年となる。各種業界の需要見通しは軒並み前年比10%ダウン、自動車メーカ連盟の販売見通しは7.5%ダウン</p> <p>粗鋼生産 3,150万トン前後（2105年比▼5%）</p> <p>国内販売 1,740万トン（同▼4%） 輸入 300万トン（同▼5%）さらに減る見通し 1月実績は前年同月比▼72%</p> <p>輸出 1,300万トン（▼5%） アメリカ向けの熱延、冷延鋼板が訴訟対象 となっており、不透明</p>

2. 発電・社会インフラ(地下鉄・都市交通)

2015年の回顧	2016年の展望
<p>発電：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 水不足・電力代金の高騰は電源の多様化ニーズを拡大し 大火力発電所の増設が期待されたが、実現せず。・ 小型ディーゼル・ガスエンジン発電設備の販売は南米諸国を含めて堅調・ 北東部の水不足・電力不足解消の目的で 風力発電所建設 多数。 <p>都市交通案件：</p> <p>州政府の税収減等に起因して 新規商談入札先送り、既発注工事の中断もあり、全体として低調。</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 3月の電力入札で 大型発電所案件が落札するか注目。・ 水不足は一部の地域で解消されつつあるが、電源多様化が加速される見通し。・ 風力・バイオマス発電案件など再生エネルギー活用の案件増加が見込まれる。・ 小型DG発電セットも需要増が見込まれる。 <p>大都市を中心に都市交通インフラ改善のニーズは依然高く、複数の都市で地下鉄等建設計画は有すものの、施主となる州・市政府も新政権発足直後であり、商談プロセスは遅れる見込み。</p>

3. プラント機械・造船

2015年の回顧

製鉄：高炉の停止・従業員解雇などもあり、新規投資案件見合わせ、非常に厳しい年であった。

石油ガス：ペトロブラスの業績不振は改善されず、新規投資案件は実質凍結の状態。油井管の引合いも停止状態。2016年1月の設備投資計画は2014年比6割減の980億ドル

石油化学：上流に引きずられ新規投資活動は鈍化した状況であったが、樹脂関係ではリアル安を背景に売上げアップ

製紙パルプ：世界的パルプ需要は依然堅調で、各社設備投資を検討していたが、陰りが見える。

造船：Lava Jatoの影響でペトロブラス案件（石油掘削船・FPSO）は実質的に停止を余儀なくされ、既発注案件も中断状態。

産業機械：景気減速により、ブラジルのセメント各社は設備新增設計画を延期。設備既納の客先からのスペアパーツの販売程度

2016年の展望

資源価格の下落で明るい材料乏しく、改造・補修需要程度か？
内需が堅調なガソリン・軽油などへの設備投資を期待

大型PJの計画は遅延。好調な個別分野に注目

中国のパルプ需要も衰え、パルプの価格下落を予想。各社の設備投資にも飽和感が出始める。

造船会社の資金難を回避できる、融資・出資スキームの構築を早期に行えるかが鍵。ペトロブラスの投資計画見直しで、全体スキームの修正が必須。

南米全体のセメント消費は拡大するが、ブラジルでの設備投資は低迷する。スペアパーツ商売を通じて客先との関係を深める。

4. 建設機械

2015年の回顧

建設機械：

2014年 総需要台数 15,832 (農業開発省3,258台)

2015年 総需要台数 6,500 (前年比▼48%)

政府の緊縮予算、L a b a J a t oに起因するインフラプロジェクトの中断、融資打切り・与信厳格化、建設会社の投資見送りの影響

油圧ショベル

2015年総需要 3000台 (前年比▼37%)

小型建機ビジネス：

小型バックホー(11トン以下) 販売は前年比▼58%と大幅減。

2016年の展望

2015年同様 建設機械の需要を取り巻くビジネス環境に大きな変化は無く、政治の混乱も続くと考える。2016年の総需要は昨年比30%を下回る4500台程度。対応：小型機種を 好調な農業・林業市場への参入を図る。リアル安を活用して欧米向けに輸出を増やす。

2016年は前年比▼10~15%市場規模縮小

労働賃金の上昇により、小型建機の増加トレンドは変わらないと推測するが、2015年同様厳しい状況が継続。

5. 農業機械（小型ディーゼルエンジン含む）

2015年の回顧	2016年の展望
<p>小型ディーゼルエンジンビジネス 発電機セット・農耕車両向けのエンジンの販売が比較的好調で2014年比 台数ベース99%、金額ベース108%となった。</p> <p>トラクタービジネス 2014年も業界全体で前年比85%と不調であったが、2015年は、さらに67%と大きく落ち込んだ。農作物の収穫は良好であった反面、市場価格が下落、また政府の農業向け低利融資も滞りも原因となった。</p>	<p>横這い 発電機セットの販売増を予測するが、建設作業向けの需要は回復に時間を要す。</p> <p>20馬力以下のエンジン市場は、地方への電化による市場が縮小している。</p> <p>2015年並を予想 日本機種投入でブランド力で販売増を狙う</p>

6. 切削工具 計測機器

2015年の回顧

切削機械：

主力顧客である自動車産業販売不振（▼26%）に伴ない、自動車生産台数も▼23%（トラックは▼48%）となり、2015年の切削機械の販売実績は**マイナス10%台**となった。

年初から急激なリアル安・金利高・インフレに遭遇して、経営的に厳しい状況であった。

計測機器

主力顧客はエネルギー・自動車業界で 現状投資抑制の状況が継続しており、営業環境は厳しい

2016年の展望

比較的堅調に推移している市場 **金型、航空機、農業、医療分野**の需要取り込を図る。新規分野開拓

先進技術の紹介、A Sの充実を図り、需要回復時のリピート顧客作りを準備する。

ブラジル経済の回復基調は政権交代後で、それまでの対応は 比較的好調な**医療分野への営業シフト**、ブラジル社会に根ざした経営の確立、リアル安を生かした投資など

7. 産業機械

2015年の回顧

ホイスト・クレーン：

主要顧客は自動車（日系メーカー、韓国現代は堅調）、鉄鉱業（V a l e）（購買量2014年比40%減少）、石油業界（プラットフォーム用需要は激減）であり、**市場規模は約半分**となった。

競合：欧米の既存メーカーは市場縮小（特に天井クレーン）でブラジル市場から**ドイツメーカー撤退**の動き。

鑄造設備機械

顧客はブラジルの鑄物業界、自動車関連、造船業、V a l e であり、投資・購買量が急落しており、2015年の業況は**減収減益**

2016年の展望

有望市場として農業機械分野、自然・再生エネルギーに注目 **風力・太陽光発電分野**に参入。

ローカルコンテンツ規準に沿って**一部現地化**を検討。

競合撤退による顧客需要を確実にフォローする体制作り。 **我慢のあとのリターンが期待できる市場**

顧客の購買意欲は2016年も継続して低迷が予想され、リアル安を活かした**輸出販売の拡大**を図る。**メキシコ・米国**案件を中心に。

8. 潤滑油・ベアリング

2015年の回顧

金属加工油剤

主要顧客は自動車産業であり、自動車生産台数の推移とほぼ連動しており、2015年の出荷数量は2014年比▼15%であった。

ベアリング

レアル安、金利上昇、市場規模縮小が経営を逼迫。自動車用は操短・生産調整の影響で25%の落込み。産業機械用はコモディティ価格の下落にともなう設備投資控えで不調となった。

2016年の展望

販売は横這い。レアルを武器にブラジル企業が輸出拡大することを期待。間接的な輸出を目指す。

販売横這い。客先の在庫調整後の反動需要を期待。与信管理を徹底

顧客の事業状況

分野	2015年
石油	PB設備投資 2014年比 6割減
石油化学	上流に引きずられて大幅減
鉄鋼	国内販売量 1.5割減
自動車・二輪	生産台数 2~3割減
発電 大型火力	電力不足なるも案件成立せず
発電 小型・再生エネルギー（風力）	好調
パルプ	順調
セメント	不調
インフラ公共事業（交通）	新規案件低調
農業アグリビジネス	好調
医療	好調
航空機	順調

ブラジルの市場環境

	状況
為替・金融	2015年頭 R\$2.6がR\$4まで通貨下落 輸入材料費高騰 政策金利 上昇基調で14.25%で高止まり 金利負担大+インフレで金融コスト増 融資枠の厳格化で倒産・再生申請企業増 通貨安は輸出産業の後押しとなった。
景気低迷で市場縮小	産業全般で生産・販売量が落込 失業率の上昇、税収不足で予算化難 好調産業分野は少数セグメントに限定 農業・医療・航空機・再生エネ
政局不安定・政策実行の遅延 中国経済・コモデティー価格の低迷	世界全体の輸入力の減退で経済環境の改善 には時間が掛かる 2~3年間は我慢

企業の備え

事象	対応
レアル安 ドル高/円高/ユーロ高	本社のネットワーク活用して 輸出攻勢 増資などで当地の高金利活用 現地経費低減 ブラジル産業資本の取得
ブラジル市場縮小	農・医・航・再生エネ分野への 営業シフト 好調な 太平洋同盟地区・北米地区 への展開
倒産件数の増加	我慢のあとに価値が出る市場 競合他社の撤退で特需もある。在庫調整後の反動需要を期待 与信管理の徹底
自国・輸出産業補助	BNDESの資金活用 LCの達成 輸入販売から現地組立への形態変更 ブラジル輸出産業をターゲットに販売促進
V字回復は困難	顧客との関係構築・技術者育成・ 長いスパンでの経営を考える時期 日本企業の 資金力・技術力・ネットワークの活用して 2~3年は我慢して乗り切る